

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500343		
法人名	社会福祉法人道海永寿会		
事業所名	グループホーム いこいの家	ユニット名	カンナ棟
所在地	福岡県大川市大字道海島660-1		
自己評価作成日	平成24年12月5日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年3月4日	評価結果確定日	平成25年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

学習療法を手段とし、入居者の認知症進行遅延への取り組みを行っている。その延長として日常生活におけるケアプランに反映させた役割作りなど、入居者の能力を活かせる場を提供している。職員については学習療法を育成の手段としても活用している。毎年(12月)学習療法実践研究発表会を行い、法人全体で各事業所での取り組みについてプレゼンテーションし、終了後に各事業所の意見交換や情報の共有を目的にグループ討議を行っている。家族や行政、外部からの参加者もある。住環境において敷地内に四季を感じられるような様々な木を植え、季節に応じた野菜の苗植えから収穫、調理に至るまでを入居者と楽しみながら行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

筑後川沿いの広々とした敷地の中に、ゆとりをもって建てられた2ユニットのホームは位置し、関連医療機関や有料老人ホームが隣接している。四季折々の草花や木々が植えられ、訪問時には紅梅が咲き誇り、彼岸桜の蕾も膨らんでいた。また、観音様や御地藏様が祀られ、入居者の方々の日々の信仰の対象となり、お彼岸の際には地域の方も多数御参りに来訪している。法人として、学習療法の実践における中心的役割を担い、毎年、研究発表会を開催している。また、法人主催の夏祭りは地域にも浸透し、盛況に開催されている。多様な介護サービス事業を展開するそのスケールメリットを活かし、情報発信や地域交流、関連機関との連携、職員の資質向上の為の研修等を実施し、サービスの向上に結び付けている。管理者、職員は、個別の思いやニーズに向き合い、その時々々の敷地内の散策等にも柔軟に対応している。今後も、個別支援の追求や地域拠点としての活動展開が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の思念を掲示し事業計画の安全・安心・安楽な生活の支援する、能力に応じ可能な限り自立した生活を送れるよう支援する、住み慣れた地域で安心した生活が送れるように支援するなど基本方針に沿い取り組み職員へ現場の中でOJTしている。	リビング入口に法人の理念を掲示している。新人研修及び毎年4月に行われる管理者研修においても、理念についての研修が行われ、その後管理者が事業所に持ち帰り、全職員に理念について伝えている。常に理念を意識・共有することを大切に、日常業務の中で実践・指導が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人行事への参加呼びかけや地域の公民館長を通じ子供太鼓・子供神輿などへ参加し地域交流を図っている。敷地内の観音様参拝時など地域の方との交流もある。	公民館長、民生委員を通じ地域の情報を受け、法人からは公報で法人行事等の情報提供を行っている。納涼祭り・いきいき祭り(文化祭)では、近隣住民や家族の参加も多い。又、敷地内に観音様をお祀りしており、参拝時に地域の方達との交流が図れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象に毎週、脳の健康教室を開催している。10月に保健センターより依頼を受け取り組みや実施内容について説明を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回開催。GHの入居者状況・活動状況等の報告し市町村代表者や地域代表者・家族代表者と意見交換行っている。市の取り組みや地域の催し、家族からの要望などを聞きサービス提供に活かしている。	2ヶ月に1回開催されている。参加者は、市介護保険課担当者・地域住民代表(民生委員、公民館長)・家族代表者で構成され、入居者状況・活動状況等の報告を行い、市の取り組み、地域の催し、家族からの要望、等の意見をサービス提供に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に事業所の実情やサービスについての実態を伝えている。 市への連絡・相談も行いやすい体制である。	運営推進会議には、行政担当者の出席を得ている。また、市研修等にも積極的に参加し、相談しやすい関係を築いている。困難事例への対応について、行政との連携を図っている経緯もあり、協議を重ねている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修は新人職員に実施。身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束ゼロに取り組んでいる。日勤帯は施錠せず、入居者の行動には目的があることを理解させ制限しないよう支援している。	新人職員研修及び24年度12月には、職員対象に研修が行われており、正しい知識と理解の向上に努めている。法人として身体拘束委員会を設置し、身体拘束ゼロに取り組んでいる。日勤帯での施錠は行わず、1日30～40回、外出の意向がある方にも、その都度職員が寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個人情報保護法・高齢者虐待防止法について新人職員へ資料を用いて研修を実施。		

福岡県 グループホーム いこいの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人センターより、資料を提供してもらいホーム内に掲示、または必要な方への配布ができるようにしている。	権利擁護に関する制度について、玄関に資料を用意し、ホーム内にもポスターを掲示している。職員に対して、申し送りノートで制度について伝える等、職員間の知識・理解の向上に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居手続きのは、担当者が重要事項説明書・利用約款に沿って説明を行っている。特に入退居時に関しては、一定の条件がある為、詳しく説明している。疑問・質問等は随時受け付けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1.苦情・意見の受付担当⇒2.苦情解決責任者⇒ 3.第三者委員会の流れで、サービスに関する苦情解決の組織委員会を設置しホーム内に組織図を掲示している。玄関に意見箱を設置している。	玄関に意見箱設置しているが、面会時に直接、意見・要望等の申し出がある場合も多く、その都度管理者が対応している。法人として第三者委員会を設置しており、各事業所に掲示し案内している。	家族意見の積極的な収集や情報共有、家族機能の活用に向けて、家族会の開催やアンケートの実施、事業所通信の再開等を検討していくことが期待されます。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2週の木曜日に部署会議を開催し他部署と意見交換を行っている。職員の報告や意見はその都度、ケアや業務に反映させている。半年に一度ある面接においても、相談や希望を聞く機会を設けている。	管理者による半年に1度の面談が行われ、困っていることや業務改善について意見・提案を聞く機会を設けている。又、日々の業務の中では、カンファレンス、申し送り、個人記録などで、意見・提案等を収集し、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の課業目標を設定し半年毎に面接を行っている。達成度により昇給が可能である。年次有給休暇は運営上の問題がなければ取得できるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人の採用規定に沿って採用している。	法人としての採用となり、管理者が面接を行っている。採用にあたり、面接時に『この仕事につきたい理由・高齢者への思い・高齢者が好きかどうか』について質問している。資格がなくても、採用後にヘルパー2級講座を受講し資格取得したり、日々の業務においても、調理やディスプレイ等、得意な分野を発揮出来るように配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	各研修を通して新人職員へ研修を行い各職員へも指導を行っている。	平成24年度の年間研修の中で、新人職員、現職員対象に各研修が行われ、その中で人権教育も行われている。法人として、職員による介護劇を実施し、地域の方の参加も多く、市民への啓発活動の取り組みとなっている。	

福岡県 グループホーム いこいの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で勤務年数毎や役職別に研修を行い、職員の質の向上を図っている。業務内ではOJTにて職員を育成し一日の状況を記録に残すOJT日誌を活用している。外部への研修にも参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、学習療法実践研究発表会を開催。終了後、テーマごとにグループ分けし討議を行っている。また、グループホーム協会が主催する研修や大川市のグループホーム連絡会においても他事業所との交流がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム内の見学をしてもらい雰囲気を味わってもらおう。担当職員は相談者からの質問を伺い不安の軽減意努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内の見学をしてもらい雰囲気を味わってもらおう。入所申込み手続きの中で、困っている事・相談ごとの聞き取りやグループホームを含めたサービスの案内などを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内には軽度者から重度者のニーズに対応できるサービスを展開している。必要時には緊急対応が出来るよう支援し相談センターとの連携にも努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染の関係が構築できるよう個人にあった声かけ、対応を心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を開示し生活の様子を伝えている。問題行動だけでなく、生活・意欲の向上も報告し家族の意見を反映できるように取り組んでいる。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた場所など車でドライブし、昔のことを思い出しながら気分転換を図ってもらっている。家族・親類・知人友人の面会がある。居室・ホール等を提供している。	町内会や老人会で活躍されていた方へ、地域の方の面会が続いている。知人に定期的に手紙を出したり、観音様参拝で地域の方と馴染みになったり等、家族・親類・知人・友人との馴染みの関係が継続出来る様に支援している。	

福岡県 グループホーム いこいの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の相性・本人の状況を考慮し、テーブルの配置を決めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	再入居希望がある場合は可能な限り受け入れ態勢をとり、困難時には他の法人サービス利用が出来るように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活パターンに応じてサービスの提供を行っている。	バックグラウンドアセスメントシートによる情報収集や、日々の業務の中で、一人ひとりのペースに合わせて寄り添い会話し、本人の思いや希望・意向の把握に努め、実践している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時、生活歴・職歴・既往歴の把握を行っている。入居後は、会話の中から、得意・不得意分野などの把握を行い、入居者に応じたサービス提供を実施している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表・一日の流れ・業務日誌など個人の状態を記録し、状態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント等で生活歴を把握し、個別計画に反映させ作成している。	職員の日々の気づきを大切に記録に残し、毎月行われるモニタリングに反映し、担当者会議では関係者と話し合い、現状に即した介護計画作成、見直しを行っている。ケアプランチェックシートを用い、日々の確認を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート・一日の流れ・バイタルチェック表ケアプラン・業務日誌等を活用し、入居者の状態変化について情報共有を行っている。		

福岡県 グループホーム いこいの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者がホームにて喫煙・飲酒などを行うことに対し制限することなく、入居者・家族の要望に答えている。また、宿泊を希望する家族には、入居者の居室に泊まれるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽演奏や民謡の訪問、看護学生の実習の受け入れを行っている。希望に応じ出張散髪も依頼し入居者との交流も図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関の受診を行っている。ホーム横には道海クリニックあり、緊急時には協力医療機関での対応ができる体制をとっている。	本人・家族の意向を尊重し、かかりつけ医との関係が途切れないように、継続して受診出来るように連携を図り、家族付き添いでかかりつけ医受診している。隣接する同法人の道海クリニック受診時は職員が同行し、緊急時は協力医療機関での対応が出来ており、本人・家族への安心に繋がる適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態を看護職員へ報告し、異常がある場合は主治医や医療機関との連携を図ってもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院への情報提供を行い、入院後は家族からの情報、相談員と連携し情報把握を行っている。退院後受け入れが困難場合は、法人内の各サービス事業所と連携を図り支援し、家族の不安を取り除いている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の身体状況を伝え、家族と情報を共有している。グループホームでの生活が困難になる前の段階で(法人内や希望の施設に)住み替えの説明を行っている。	入居時に、重度化した場合や終末期に向けた方針を家族に説明している。心身の状態変化により必要時は話し合いを重ね、実態調査票による家族との情報共有を図り、法人内の連携も活かしながら、重度化・終末期への対応を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、心肺蘇生法等の研修を実施。マニュアルはすぐに確認できる所に置いている。		

福岡県 グループホーム いこいの家

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回緊急通報訓練を実施している。また、年に2回消防署立会いのもと避難訓練(昼間・夜間想定)を実施している。自衛消防隊を編成し公民館長や法人の他部署も連絡し応援要請ができる体制をとっている。	年2回消防署立ち合いの避難訓練(昼・夜想定)が実施され、他、年2回の自主訓練の計4回避難訓練を実施している。24年度は1度、運営推進会議の中で訓練が実施され、地域との連携を図っている。職員には研修時に防災マニュアルを配布している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は法人及びグループホームの基本理念である。その他、OJTの指導を実施し、新人職員へは資料を配布し研修を実施。	・新人職員に対しては資料配布し研修を行っている。又、日常業務の中ではOJTを実施し、ベテラン職員が1ヶ月間指導し、OJT日誌として実習内容を記録している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に声をかけ希望、意思の確認を行っている。自己表現・自己判断が出来ない入居者においては目配り・気配りの支援をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者を第一に考え職員が脇役に徹するように指導している。業務優先ではなく、入居者本位の援助を心掛けている。入居者のペースで生活してもらっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月外部からの理容訪問を受けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	洗米・食材のつぎわけ・トレー拭き・テーブル拭き・食器洗いなど、入居者それぞれに役割を担ってもらいながら職員と共に実施している。	入居者それぞれに出来ることを役割分担し、職員と一緒に準備・片付け等行っている。グループホームの庭で収穫される果物・野菜等についても、職員と一緒に出来る範囲で作業し、食べる楽しみに繋がる様に支援している。主菜は法人厨房より提供され、炊飯や副菜をホームで調理している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日記録している。体重変化や異常があれば医師に相談している。必要に応じ管理栄養士にも相談している。好みの物が摂取できるように家族の協力も得ている。		

福岡県 グループホーム いこいの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に応じた援助を実施している。ホーム横の道海クリニックに歯科が併設され、希望時や異常時はすぐに受診が可能である。家族へも報告書を送付している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁、尿漏れのある入居者には、声かけ、誘導を行っている。希望でパットを使用している入居者へは排泄時間を把握しトイレへの誘導を促している。排泄パターンを把握するように努めている。	排泄チェックシートに記入することで、個々の排泄パターンを把握し、声かけ・トイレ誘導を行っている。日頃から表情やしぐさでのサインを見逃さず、トイレでの排泄を支援出来るように、職員間の情報共有・連携を図っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確認し状況に応じて運動や繊維物の摂取を促している。可能な限り薬には頼らない援助を実施している。必要に応じて医師の指示を受けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴でき、時間帯は午後としている。入居者の意向に沿って対応している。入浴の長さも入居者の希望・ペースに合わせている。	法人施設内で2ヶ所源泉が湧出しており、ホームでも温泉を楽しむことが出来る。希望があれば毎日入浴出来るように対応しているが、拒否のある方は時間を置き、再度声かけを行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間・起床時間は、本人のペースに合わせている。特別リズムが狂わない限り、本人の生活パターンに合わせた援助を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に服薬の種類・処方量・目的・副作用などを掲示している。服薬マニュアルに沿い分包・セットを行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に応じた機能を発揮できるよう支援している。ケアプランにも反映させている。		

福岡県 グループホーム いこいの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	観音様参拝・園内散歩・個別の買い物・又家族へ働きかけ外泊、外出できるように支援している。法人主催の納涼祭、生き生き祭りなどにも入居者と一緒に参加を呼びかけている。	希望や季候に応じて、観音様参拝、庭園散策、スーパーへ買い物等、職員が個別に対応している。又、普段は行けないような場所へは本人の希望を把握し、家族の協力で外泊・外出の支援も行われている。法人主催の祭りには、家族・地域の人々の参加も多く、入居者と一緒に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる利用者には、2000円～3000円程度を手持ち金として管理してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は了解を得て行っている。頻繁に面会が出来ない家族はホームに電話をかけた話をされている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は季節に応じた飾りつけをしている。季節の草花を玄関やテーブルに飾り、季節感を味わってもらっている。室温やテレビの音量など入居者に応じ調整している。	ホーム内は、季節を感じる事が出来る飾りつけや草花で整理・整頓され、天窓からは穏やかな日差しが入り、明るく開放的な雰囲気である。空間的にも広く、リビングと食堂が離れているので、それぞれの場所で本人のペースで穏やかに過ごされている姿が見受けられた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居間で自由に過ごしてもらえるよう配慮 支援をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていた馴染のあるものが良いことを伝える。その他希望に応じ冷蔵庫・テレビなどの家電製品も持ち込んでもらっている。	各居室は毎日定期的に空気の入替えを行い、清潔に気持ちよく過ごせるように配慮されている。室内は使い慣れたベッドやタンス、電化製品などが持ち込まれ、写真や季節の小物が飾られ、本人の好みで自由な空間作りがなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が確認できるよう各部屋に名前を記入している。廊下、トイレ、浴室に手すりを設置し必要に応じ車イスや杖を使用し可能な限り自力での移動、動作を支援している。		